

学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるようその教育活動等の成果を検証し学校運営の改善と発展をめざすための取組です。保護者や地域からの期待に応えるとともに、より信頼される学校づくりをめざして今年度のアンケート結果を分析し、来年度に向けた課題を明らかにしたいと考えます。

○調査時期 令和5(2023)年12月

○調査方法 児童・保護者・教職員=アンケートフォームで回答

○調査人数…児童230(回答227)名(回答率96.7%) 保護者173(回答160)世帯(回答率92.5%) 教職員24名

○評価点 4=そう思う 3=ややそう思う 2=あまりそう思わない 1=そう思わない

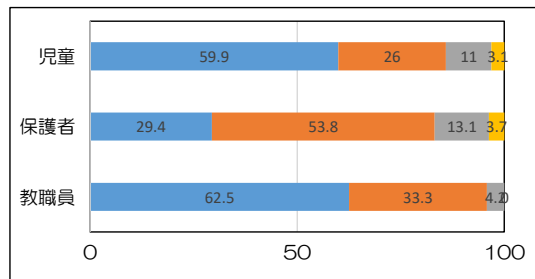
○考察…4+3を肯定的評価, 2+1を否定的評価ととらえる。

90%以上 80%以上 70%以下

1 いじめのない学校づくりについて

- 児童 1. いじめのない楽しい学校生活を送ることができていますか。
 保護者 1. いじめのない楽しい学校だと思いますか。
 教職員 1. 学校は、いじめのない楽しい学級・学校づくりに取り組んでいますか。

	4	3	2	1	4+3	R4との比較
児童	59.9	26	11	3	85.9	↓ 5.1
保護者	29.4	53.8	13.1	0	83.2	↑ 0.2
教職員	62.5	33.3	4.2	0	95.8	↑ 1.8



回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24

(考察)

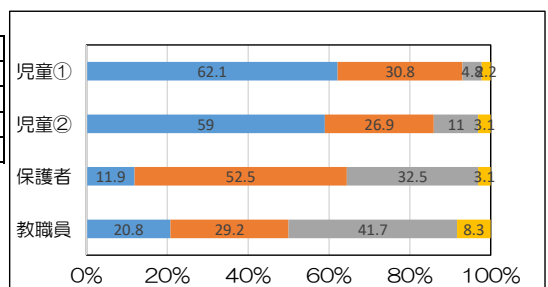
児童の肯定的評価が85.9%と、昨年度と比較すると児童の肯定的な回答は5.1%減少している。一方、保護者の肯定的評価は83.2%と、昨年度と比較して肯定的評価が0.2%上昇し、教職員の肯定的評価も、95.8%と、昨年度と比較して肯定的評価が1.8%上昇している。

学級や学校は、児童にとって安全・安心の場であり、また、楽しく過ごせる場でなければならない。学級や学校での生活に対し不安を感じている児童が、学級の中で居ることに、学校は、常に真摯に向きあわなくてはならない。そのためには、教職員は一致団結し、いじめを見逃さない高い意識といじめ根絶・解消に向けた強い決意をもって日々の指導に取り組み、児童全員が楽しく生き生きとした学校生活を送れるよう、今後もさらに努力を積み重ねなければならない。全ての教職員が生徒指導上の諸問題を自分の問題としてとらえ、日頃から関心をもって自己研鑽に努めなければならない。また、一人一人の児童の人権に配慮し、教職員と児童、児童間で信頼関係に基づく好ましい人間関係が成立するように努めることが肝要である。日々の授業の充実や人権教育・道徳教育・生徒指導を重視しながら児童の豊かな心を育ていけるよう、教職員は日々研鑽を積み重ねなければならない。

2 あいさつについて

- 児童 1. 先生や友達にあいさつをしていますか。①
 2. 家族や地域の方にあいさつをしていますか。②
 保護者 2. 子どもたちは、家庭や地域の方に挨拶がよくできていると思いますか。
 教職員 2. 児童は教職員や友達に挨拶をよくしていると思いますか。

	4	3	2	1	4+3	R4との比較
2 児童①	62.1	30.8	4.8	2.2	92.9	↑ 8.9
2 児童②	59	26.9	11	3.1	85.9	→
2 保護者	11.9	52.5	32.5	3.1	64.4	↓ 12.6
2 教職員	20.8	29.2	41.7	8.3	50	↓ 22



回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24

(考察)

あいさつは、よりよい人間関係を築くための第一歩であり、コミュニケーションづくりの基本である。本校では、「気持ちのよいあいさつ」の励行を掲げ、教職員が率先して「あいさつ運動」を推し進めてきた。

今年度のアンケート結果は、児童の肯定的な回答が92.9%、85.9%と高い数値を示しているにもかかわらず、保護者は64.4%と昨年度と比較して12.6%減少し、教職員は50%と昨年度と比較して22%と大きく減少しており、児童の評価の間に大きな乖離が見られる。児童の様子を見ると、登下校時の「あいさつ」や来客への「あいさつ」等に関しては、できている児童とできない児童がはっきりと分かれてきている。また、あいさつを促されて、ようやくあいさつをするのだと気付く児童もいる。教職員は、校門や児童昇降口前等での日々の挨拶とともに、教室や様々な場面での気持ちのよい挨拶を意識して「あいさつ運動」に取り組んでいるが、誰もが当たり前、笑顔で気持ちのよいあいさつができるよう、教職員がしっかりと手本を示していかなければならない。学校、家庭、地域のどの場でもあいさつができるように、家庭との連携の強化、教職員による働きかけや、児童会によるあいさつ運動等を展開し、心の通った「あいさつ運動」に、今後も取り組んでいかなければならない。

3 学校のきまりについて

- 児童 3. 学校のきまりや約束を守って生活することができていますか。
 保護者 3. 子どもたちはきまりや約束を守っていると思いますか。
 教職員 3. 児童は学校のきまりや約束を守って生活をしていると思いますか。

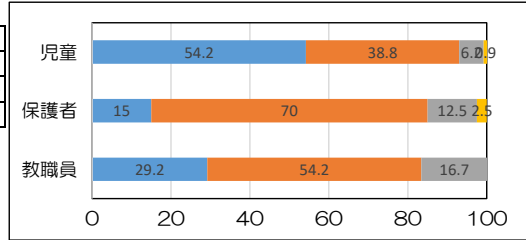
		4	3	2	1	4+3	R4との比較	
3	児童	54.2	38.8	6.2	0.9	93	↑	3
3	保護者	15	70	12.5	2.5	85	↑	4
3	教職員	29.2	54.2	16.7	0	83.4	↑	12.4

回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24

(考察)

児童、保護者、教職員の肯定的評価が増加傾向にあるといえる。昨年度と比較して肯定的評価が、児童は3%、保護者は4%、教職員は、12.4%と増加した。児童が、落ち着いて学校生活を送れているととらえている。「廊下は右側を静かに歩く」「チャイムを守り行動する」「忘れ物をしない」「交通ルールを守る」等、児童にとって守るべき項目は多岐に渡るが、これらのことを日々意識させ、実践させていくことが、規範意識を高めることの基礎・基本となる。このことを教職員もしっかりと認識し、児童の心にどの場面でも高い規範意識が育つよう、そして学校生活のみならず家庭・地域での生活においても実践できるよう、今後も家庭と連携しながら心の育成に努めなければならない。児童に対しては、今後も、「わたしたちのきまり」をもとに、くり返しきまりを守ることの大切さを指導することや、きまりや約束を守ることが、共に生活しているなかまを大切にすることも深くつながっていることをしっかりと意識させ、児童の規範意識をさらに高めていきたい。生徒指導においては、教職員の共通理解と保護者・地域住民の協力のもと意思統一を図りながら、教職員が一丸となって児童の規範意識を高めるために率先垂範の姿勢で努力を続けていく。



4 清掃・美化について

- 児童 4. そうじをがんばっていますか。
 保護者 4. 子どもたちは、校舎内の美化に積極的に取り組んでいますか。
 教職員 4. 本校は、校内の環境美化に積極的に取り組んでいますか。

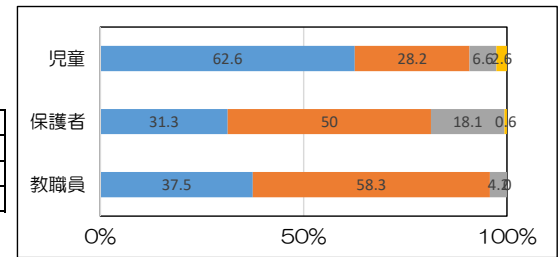
		4	3	2	1	4+3	R4との比較	
4	児童	62.6	28.2	6.6	2.6	90.8	↓	1.2
4	保護者	31.3	50	18.1	0.6	81.3	↓	9.7
4	教職員	37.5	58.3	4.2	0	95.8	↑	18.8

回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24

(考察)

児童の肯定的評価は、昨年度と比較して1.2%減少しているが90%を超えており、一般的に清掃の時間内において、児童は、当麻小学校の学び舎に愛着をもって学校の美化に励んでいる。その結果、教職員の肯定的評価も、昨年度の77%から95.8%と、18.8%も増加している。今後も、これらの取組や児童の校内美化への意識を高めていき、美しい学校づくりを目指していきたい。教職員は、校内の整理整頓に努め今後も自分たちの学校を美しくすることの意義を児童に説くとともに、自分の教室だけでなく各場所に向き、全体を見渡した指導を日々重ねていかなければならない。また、掃除の仕方も不十分で、ほうきなども正しく使えていない児童もいる。児童に、丁寧に指導しなければならないことを意識し、児童とともに一所懸命に清掃活動に取り組むことをめざしたい。



また、学校・地域・パートナーシップ事業コーディネーターを中心として、環境美化活動が多くのボランティアによって継続され、常に校内や学校の周りにはいつも美しい花が咲いている環境がつけられている。さらに、「クリーンタイム」では、児童と多くのボランティアの方々と一緒に、学校周辺の清掃活動の取組にも積極的に取り組んでいる。これらの取組が、児童の環境美化への意識向上により効果をもたらしていると考えている。自分たちの学び舎が、たくさんの方々の協力のもとに維持管理されていることや、みんなが使う物を大切に使い、使った後はきちんと片付けることをこれからも繰り返し話をし、指導を進めていきたい。

5 授業について ①

- 児童 5. 授業はわかりやすいですか。
 保護者 5. わかりやすい授業が行われている学校だと思いますか。
 教職員 5. 本校は、わかりやすい授業に努めていますか。

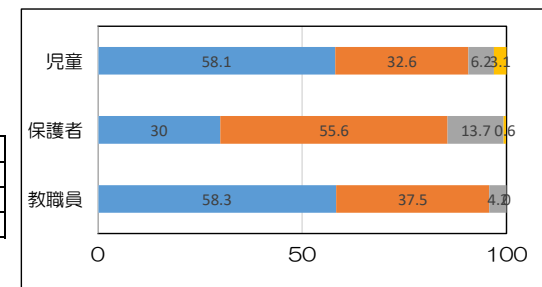
		4	3	2	1	4+3	R4との比較	
5	児童	58.1	32.6	6.2	3.1	90.7	↓	2.3
5	保護者	30	55.6	13.7	0.6	85.6	↑	6.6
5	教職員	58.3	37.5	4.2	0	95.8	↑	1.8

回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24

(考察)

児童の肯定的評価が良好な数値を示しているが、1学級あたり少なからず「授業がわかりにくい」ととらえている児童がいることを忘れてはならない。教職員は日々わかりやすい授業を目指して、ICTの効果的な活用をはじめとする様々な授業改善に取り組んでいるが、引き続き自己研鑽を積むことが必要だと考える。「教師は授業で勝負する」と言われるように確かな授業力の確立が求められる中で、学び続けることが教職員としてのあるべき姿であると我々がしっかりと自覚しなければならない。



また、保護者の評価においては肯定的回答が85.6%あった。昨年度の79%から85.6%と、6.6%増加している。特に、「そう思う」が、昨年度と比較すると19%から30%と、11%増加している。今年度は、読む力を付けるために国語科を中心に授業改善に取り組んできた。今後も、教職員の学力向上に向けた取組やその努力が、児童の学習意欲や学力の向上として結果があらわれるように、引き続き、教職員が研修等を通して自己研鑽を積み、指導力向上に努めていかなければならない。

さらに、学習でつまづきを示す子どもたちに対しては、どの学級でも教職員が個別の指導を進めている。今後も、学校体制として学力向上や学力補充についての方向性を明確に示していくことを含め、教職員のさらなる指導力の向上を目指さなければならない。

6 授業について ②

- 児童 6. 授業中、先生の話をよく聞いていますか。
 保護者 6. 子どもたちは、授業中、先生の話をよく聞いていると思いますか。
 教職員 6. 子どもたちは、授業中、話をよく聞いていますか。

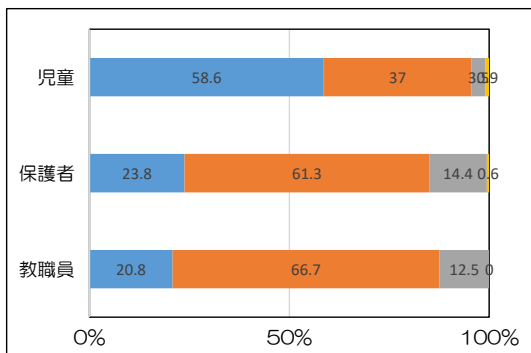
		4	3	2	1	4+3	R4との比較
6	児童	58.6	37	3.5	0.9	95.6	↑ 3.6
6	保護者	23.8	61.3	14.4	0.6	85.1	↑ 0.1
6	教職員	20.8	66.7	12.5	0	87.5	↓ 1.5

回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24

(考察)

肯定的評価については、児童や保護者の評価としては概ね良好といえる。「當麻スタンダード」をもとに、学校全体として学習規律の確立、聞く力や聞く態度の向上を目指してきた。児童は、全般的に学習中は落ち着いた態度であり、よく集中していると見られるが、肯定的評価のさらなる向上を教職員の課題としてしっかりと共通理解し、今後の授業改善に臨まなければならない。また、聞く力の確かな育成には、例えば、「話をする人の顔を見ながら」「うなづきながら」「メモをとりながら」「質問を考えながら」など、発達段階に応じたわかりやすい評価の指標を児童に具体的に示していくことが必要である。児童の「聞く」という活動は、指導者側の「聞かせる中身」と深くつながっていると、学習活動の基礎・基本だといえる。「聞く」から「聴く」、「訊く」、さらにこれらの「きく」活動を通じた学習効果として「効く」へと深化していけるよう、指導者側の意識をさらに高めていかなければならないと考える。そのためには、児童が主体的に「きく」ことができる授業づくりが必要であり、魅力ある授業を今後もめざすことが大切である。



7 家庭学習について

- 児童 7. 家で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。
 保護者 7. 子どもたちは家で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。
 教職員 7. 児童は家庭学習に取り組んでいると思いますか。

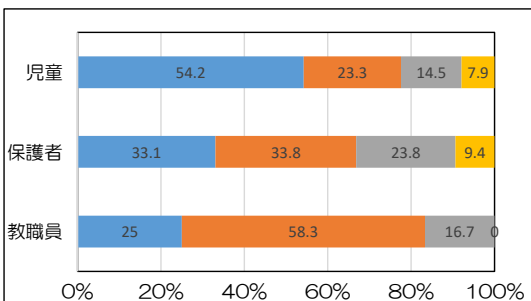
		4	3	2	1	4+3	R4との比較
7	児童	54.2	23.3	14.5	7.9	77.5	→
7	保護者	33.1	33.8	23.8	9.4	66.9	↓ 5.1
7	教職員	25	58.3	16.7	0	83.3	↑ 1.3

回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24

(考察)

児童の学習習慣が身に付くように、家庭学習の定着を目指して取り組んでいるが、例年、学校の課題として取り上げられている。児童の否定的評価の数値が22.5%と、約1/5の児童がこれに該当する。また、保護者の肯定的な評価は、昨年度と比較して5.1%減少しており、児童の家庭学習の取り組み方に課題を感じている。家庭学習が定着しない理由として考えられることは、学習塾等の習い事やそこで出される課題等が児童にとっての優先順位の上位となっていたり、遊ぶことが優先されたり、また、やる気はあるものの、児童にとって宿題として出される内容が難しかったり、その量が多すぎたりと様々なことが考えられる。また、家庭学習の定着には、家庭の協力が不可欠であることも否めない。家庭学習の定着を図るための宿題の出し方の工夫や、家庭学習に対する児童の意識の向上も今後の課題としてとらえていくことが大切である。生涯に渡って「学び続ける」ということが教育のめざすところであり、学校だけでなく地域の取組としても家庭学習の定着が求められている。学校は子どもたちの基本的な生活習慣の一つとして家庭学習を位置づけ、「家庭学習のてびき」等で家庭学習の重要性についての学校からの発信や啓発を今後も継続的に行っていきたい。



8 内容理解について

- 保護者 8. 教職員は、児童が学習理解しているかどうか気を配っていると思いますか。
 教職員 8. 児童が学習内容を理解しているかどうか気を配っていますか。

		4	3	2	1	4+3	R4との比較
8	保護者	28.7	54.4	13.1	3.7	83.1	↑ 19.1
8	教職員	54.2	45.8	0	0	100	↑ 6

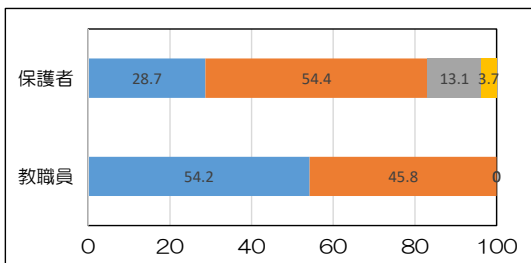
回答数

保護者	173
教職員	24

(考察)

肯定的回答の割合は、教職員が100%と良好であり、保護者も83.1%とおおむね良好な結果である。特に、保護者の評価においては肯定的回答が昨年度の64%から83.1%と、19.1%も増加している。多くの保護者が、教職員は、児童が学習理解しているかどうかについてよく気を配っていると、肯定的に感じているととらえている。これは、日頃の学習指導に対する教職員の取組が、肯定的な評価の数値としてあらわれたものと思われる。しかし、16.8%の保護者が、学習指導に対する不安について感じており、また、「そう思う」という肯定的な保護者の評価も、28.7%とまだまだ十分ではない。我々教職員は、この結果を真摯に受け止めて授業改善に取り組んでいかなければならない。

教職員の評価については、肯定的な評価が高い。このことは教職員の努力のたまものといえるが、これに満足することなく、今後も数値がさらに高まる取り組みを進める必要がある。教職員は、日頃の授業を省察するとともに、個々の児童の実態を把握し、きめ細かな指導につなげようとする必要がある。日々の授業の大切さを意識し、児童一人一人に寄り添いながらより一層学力向上に努めなければならない。そのためには、朝学習等を通して児童の理解度を把握し、基礎・基本の定着を図る。さらに、個々のつまずきを把握し日頃の授業にいかしながら児童の学習理解を深め学力向上につなげていきたい。



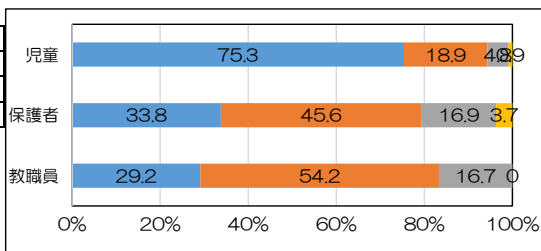
9 体力作りについて

- 児童 8. 学校で外遊びや体育の授業をがんばっていますか。
 保護者 9. 子ども達は進んで運動や外遊びをしていますか。
 教職員 9. 学校は体育の授業や外遊びを中心に体力づくりの取組を推進していると思いますか。

		4	3	2	1	4+3	R4との比較
9	児童	75.3	18.9	4.8	0.9	94.2	↑ 6.2
9	保護者	33.8	45.6	16.9	3.7	79.4	↑ 11.4
9	教職員	29.2	54.2	16.7	0	83.4	↑ 7.4

回答数

児童	227
保護者	173
教職員	24



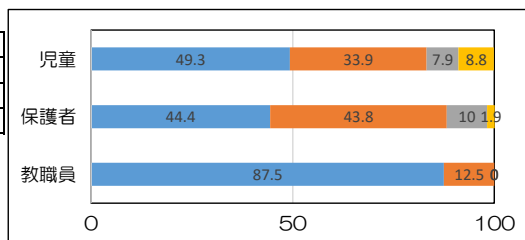
(考察)

児童・保護者・教職員ともに肯定的回答の割合が増加している。児童の評価においては、肯定的回答が94.2%で、昨年度の88%から94.2%と、6.2%増加している。特に、「そう思う」が、昨年度と比較すると65%から75.3%と、10.3%増加している。体育の授業等、コロナ禍以前の取組ができるようになったことで、体力向上の取組や体育的行事に積極的に取り組むことができた結果であると考えられている。保護者の評価においては、昨年度の68%から79.4%と、11.4%増加している一方、2割以上の保護者が、児童の外遊びや体力づくりの取組を十分ではないとらえている。コロナ禍以前の取組が、今後充実していくことが大切ではないかとらえている。生涯にわたって健康を保持・増進しようとする意欲の醸成とともに、体力づくりや運動能力の向上という課題を、学校教育の中でどのように取り組んでいくかが問われている。そのためには、業間休みや昼休みを使つての学級遊びの設定や、なわとび集会、跳び箱月間の実施など、運動場で外遊びをしたり、目標をもって体育の授業に臨むことを意図した取組を、今後も進めていくことが必要である。また、1学期の体力・運動能力テストに始まる一連の体育的行事を学校の年間行事計画の中に明確に位置付け、家庭における更なる運動や体力づくりの取組に協力していただくことも必要であると考えられる。

10 教育相談について

- 児童 9. 先生に、相談することができますか。
 保護者 10. 学校は、児童や保護者からの相談に応じていると思いますか。
 教職員 10. 本校は児童や保護者からの相談に応じていますか。

		4	3	2	1	4+3	R4との比較
10	児童	49.3	33.9	7.9	8.8	83.2	↓ 1.8
10	保護者	44.4	43.8	10	1.9	88.2	↑ 11.2
10	教職員	87.5	12.5	0	0	100	↑ 5



(考察)

保護者・教職員のアンケートでは、肯定的評価の割合が保護者では88.2%、教職員では100%と良好な数値を示しています。特に、保護者の評価においては、昨年度の77%から88.2%と、11.2%増加している。しかし、児童の肯定的評価は83.2%と、昨年度より1.8%減少している。16.7%の児童が否定的な回答を寄せていることに関して、危機意識を教職員全体で共有する必要があるといえる。また、1割以上の保護者否定的な評価であることも事実である。加えて、児童と教職員との肯定的評価の乖離は検証の必要がある。児童の日頃の様子に注意しながら、児童に寄り添うことができるようにするために、教職員全体で児童を見守りその様子を共有し手立てを講ずることが大切である。児童のよき相談相手として、また、学校が保護者に安心を担保する存在として、教職員は、児童にしっかりと寄り添っていかなければならない。児童の発達段階も考慮したうえで、たとえば、家庭訪問や個人面談の機会を設定していく等、具体的な取組を行うことが、相談できない児童の心を開ききっかけとなるのではないかと考える。また、教職員は児童や保護者の良き相談相手として、聞く側がどうあるべきかというカウンセリング等の研修も進めていく必要がある。

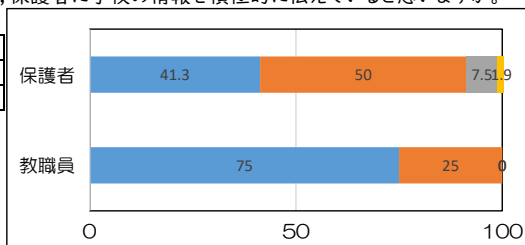
11 情報提供について

- 保護者 11. 学校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、家庭に学校の情報を積極的に伝えられていると思いますか。
 教職員 11. 本校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、保護者に学校の情報を積極的に伝えていると思いますか。

		4	3	2	1	4+3	R4との比較
11	保護者	41.3	50	7.5	1.9	91.3	↑ 4.3
11	教職員	75	25	0	0	100	→

回答数

保護者	173
教職員	24



(考察)

肯定的回答の割合は、保護者が91.3%、教職員が100%と良好な結果である。学校は、より開かれた学校をめざす情報提供・開示の手立てとして、学校だより、学年・学級通信の発行、学校ホームページの充実等を行っている。また、保護者向けの配信アプリを利用して、適宜必要な情報を保護者に発信できることで、肯定的評価が良好な数値として表れていると考えている。今後も、個人情報の保護や守秘義務等を遵守した上で、積極的な情報の発信を学校として推進していきたい。さらに、緊急時の配信にも気を配り、保護者や児童に不安を与える事態とならぬよう、よりスピーディーで正確な情報提供を心がけることが大切である。保護者や地域に、学校の教育方針や願い、教職員の思いをしっかりと伝えていくことで、学校と保護者との協働が可能となり、より強固な関係が築かれるものと考えられる。